

【担当教員】

李志東

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟306号室

【授業目的及び達成目標】

限られた資源のもとで、人々の満足度を高めるために、家計、企業、政府といった経済主体がどのように行動すべきか、その結果最適な資源配分が達成されるかどうかなど、ミクロ経済学の基礎に関する理解を目的とする。応用課題として、公害問題や地球温暖化問題など環境問題に関する経済学的意味付けと対策検討もあわせて行う。最終的に、経済、産業などの業界誌、新聞の読解能力を身に付け、独自の情勢判断ができることを目標とする。

【授業キーワード】

経済主体、合理的行動、市場メカニズム、消費者行動と効用最大化、企業行動と利潤最大化、市場均衡と最適、市場の失敗と計画の失敗

【授業内容及び授業方法】

私たちが日々見聞きしている現実の経済問題と関連付けつつ、基本的考え方と諸概念に重点を置き、ミクロ経済学の基礎知識を習得する。講義に当たって、復習と内容理解に関する質疑応答を随時行う。

【授業項目】

1. ミクロ経済学の概要(1回)
2. 消費者行動と需要関数(4回)
3. 生産者行動と供給関数(4回)
4. 市場均衡の理論(3回)
5. 「市場の失敗」と「計画の失敗」(1～2回)

【教科書】

「入門 価格理論第2版」倉沢資成、日本評論社

【参考書】

追って指示する。

【成績の評価方法と評価項目】

質疑応答と持ち込み可の筆記試験を総合して評価する。

【留意事項】

「マクロ経済学分析」と併せて履修することが望ましい。

【担当教員】

渡辺 登

【教員室または連絡先】

(非常勤講師)

【授業目的及び達成目標】

社会学の基本的な考え方を修得するとともに、これに基づいて現実に生起する社会的諸事象を客観的に把握できるようにすることを目的とする。

【授業内容及び授業方法】

社会学の基本的な見方を日常的な事例を考える中で、修得していく。なお、理解度を測るために数回毎にテストを行う。

【授業項目】

- 1.社会学と隣接諸科学(1回)
- 2.社会学的考え方とは何かー「常識」の相対化
 - ①潜在的機能と顕在的機能(2-4回)
 - ②ラベリング理論(5・6回)
 - ③ジェンダー(8・9回)
- 3.社会学的説明と記述ー因果関係(10・11回)
- 4.社会学と社会調査(12・13回)
 - ①「調査」の嘘を見破る方法
 - ②実際の調査はどのように行うのか
- 5.現代社会を読み解く(14・15回)

【教科書】

教科書は指定しない。参考書については講義において指示する。

【成績の評価方法と評価項目】

レポート80%、出席20%

【担当教員】

浅川 公紀

【教員室または連絡先】

非常勤講師(連絡先: 体育・保健センター三宅教官9822)

【授業目的及び達成目標】

民主主義国家の政治システムは大きく分けて大統領制と議院内閣制である。本年はアメリカの大統領制に焦点を当て、日米の政治システムの違いを明確にし、国際社会の政治的側面を理解する。

【授業キーワード】

アメリカ大統領政治、大統領、官僚機構、連邦議会、世論、メディア、政党、利益団体

【授業内容及び授業方法】

教科書を用いて講義を進めるが、その間、授業科目に見合ったカレントな情報もできるだけ取り入れる。

【授業項目】

1. 2002年ブッシュ外交スタート
2. 大統領のリーダーシップ
3. 大統領の権限と範囲
4. 大統領の責任と役割
5. 大統領の決定スタイル
6. 官僚機構
7. 大統領府
8. 連邦議会
9. 世論とメディア
10. 政党と利益団体

【教科書】

『アメリカ大統領と外交システム』浅川公紀著、頸草書房

【成績の評価方法と評価項目】

講義最終日に試験を行う。授業中に提出してもらったレポートも評価の対象にする。

【担当教員】

井上 明俊

【教員室または連絡先】

内線9002

【授業目的及び達成目標】

国家の基本法で、日本社会の構成原理である日本国憲法について学習することにより、現代の社会に起きている事象を理解し、考察できるようになることを目指す。また、多様な考え方が成り立つという、社会科学的な思考方法についても学習する。

【授業キーワード】

国民主権、基本的人権、平和主義、国会、内閣、裁判所

【授業内容及び授業方法】

講義は、毎回配布する講義レジュメに沿って行う。講義内容に関連した資料を配布し、また、ビデオ等を活用することにより、理解を深める。

【授業項目】

- 1 憲法と立憲主義
- 2 日本国憲法の原理
- 3 国民主権と天皇制
- 4 平和主義
- 5 基本的人権とその限界
- 6 幸福追求権、法の下での平等
- 7 思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由
- 8 表現の自由、集会・結社の自由、通信の秘密
- 9 職業選択の自由、居住・移転の自由、財産権、人身の自由
- 10 参政権、生存権、教育を受ける権利、労働基本権
- 11 権力分立の原理、国会
- 12 内閣
- 13 裁判所
- 14 財政、地方自治、憲法改正
- 15 (試験)

【教科書】

指定しない。

【参考書】

「憲法」(新版、補訂版) 芦部信喜著(岩波書店)

【成績の評価方法と評価項目】

小レポート、学習態度、試験(又は最終レポート)により総合的に評価

【留意事項】

日常的に、マスコミなどにより、社会の出来事に関心を持ってほしい。

【担当教員】

植野 真臣

【授業目的及び達成目標】

人間や動物の認知や行動のメカニズムについての最新の知識の修得を目的とする。

【授業内容及び授業方法】

心理学の基本テーマである「自我」について講義する。
やさしい基礎知識から入るが、応用的に今日の心の問題も扱う。

【授業項目】

- 第1回 インTRODクシヨン／心とはなにか
- 第2回 自分とはなにか／自我とセルフ
- 第3回 自分のはたらき1／心を守る
- 第4回 心の防衛メカニズム
- 第5回 自分のはたらき2／自分をまとめる
- 第6回 アイデンティティ(同一性)
- 第7回 自分のはたらき3／人とやりとりする
- 第8回 インタラクシヨン(相互作用)

【教科書】

マンガ「心の授業 -- 自分ってなんだろう -- 」
三森創著 北大路書房 1,300円

【成績の評価方法と評価項目】

テスト80%、出席状況10%、受講態度(遅刻、私語厳禁)10%

【担当教員】

中村 和男

【教員室または連絡先】

化学・経営情報棟 405

【授業目的及び達成目標】

人類の生存や諸活動は、実世界の複雑に絡み合うさまざまな要素との関係の中で成り立っている。科学技術の発展と人口の急速な増大は、人類の生存や活動においてそうした関係を意識的にとらえていかなければ問題の本質をおさえられず、解決していくことも困難な状況をもたらしている。本講義では、対象をシステムとして認識し、部分と全体及びその相互関連性を分析し、これを合成するためのシステム概念、システム理論、システム技法の諸相を概説しシステムチックな思考法を培うことを目的とする。

【授業キーワード】

一般システム、要素と全体、相互関連、複雑性、システム工学、システム分析、システム合成、最適化、意思決定

【授業内容及び授業方法】

システムの一般的定義及びその一般的性質の理解から始めて、対象をシステムとして認識する考え方及びそれをシステムとして記述、分析、合成する方法を具体例を用いながら習得してもらおう。授業の進め方としては、適宜プリントを配布し解説を加えるとともに、例題や演習問題を通して考え方や手法を体得してもらえるように努める。

【授業項目】

1. システムとは (2回)
システムという用語の使い方、モノのとらえ方、その具体的例示
2. システムの一般理論 (2回)
一般システム論、システムの分類と具体例、システム概念の数理的考察
3. システム科学とシステム工学 (1回)
システムの基礎論と他分野への適用、システム工学における諸相
4. システムの表現 (2回)
目的の構造化と効用関数、対象のモデル化(グラフ、微分方程式、オートマトン)
5. システム合成と分析 (4回)
システム合成の方法(実現可能性、発想支援)、システム分析の方法(構造特性、動的安定性、シミュレーション)
6. 適正なシステムの選択 (2回)
目的関数と制約条件、数理計画手法、その他の柔軟な手法
7. 新たなシステム思考 (1回)
学習、自己組織、自律分散、知的システム

【教科書】

なし。ただし、プリントを配布する。

【参考書】

フォン・ベルタランフィ著「一般システム理論」、H.A.サイモン著「新版 システム科学」(パーソナルメディア)、渡辺茂・須賀雅夫著「新版 システム工学とは何か」(日本放送出版協会)、飯尾要著「情報・システム論入門」(日本評論社)

【成績の評価方法と評価項目】

1. レポート(演習問題を含む) 30%
2. 学期末筆記試験(配布資料の持込可) 60%
3. 学習態度(出席状況や聴講・質疑の態度) 10%

【留意事項】

この講義は総合科目2類Bの「システム工学概論」につながる科目であり、その前に履修することが望ましい

【担当教員】

根木 昭 他

【授業目的及び達成目標】

現代人の生活にとって、情報資源の活用は必須の条件となっている。このため、新聞・雑誌・図書等の刊行物に関わる情報を中心に、必要とされる情報の効率的な選択に必要な検索理論、検索システム、検索戦略について、基礎知識と技術を学ぶ。

【授業キーワード】

学術情報、レポート作成技術、プレゼンテーション技術、インターネット、パソコン

【授業内容及び授業方法】

複数の教官及びこの分野の専門家の協力により、講義及び実際の情報機器の操作を併用して進める。

【授業項目】

- 1.教育・学術・文化と情報(1回)
- 2.パソコンの操作(1回)
- 3.インターネット情報検索(1回)
- 4.図書館情報検索(5回:情報収集・選択方法、図書館の 資料、書誌と所蔵と分類、データベースの基礎、まとめ)
- 5.学術情報と図書館(1回)
- 6.レポート作成技術(2回)
- 11.プレゼンテーション技術(3回)
- 12.総括まとめ・ディスカッション(1回)

【教科書】

特に使用しない。

【成績の評価方法と評価項目】

- 小テスト(40%)
- レポート(40%)
- 学習態度(20%)

【留意事項】

1学期、2学期とも、人数は30名。同一単位、同一内容の授業とする。希望者は、いずれかの学期において履修してよい。